

# 平成30年度 三鷹中央学園 学園・学校評価アンケートまとめ

## 【第七小学校】

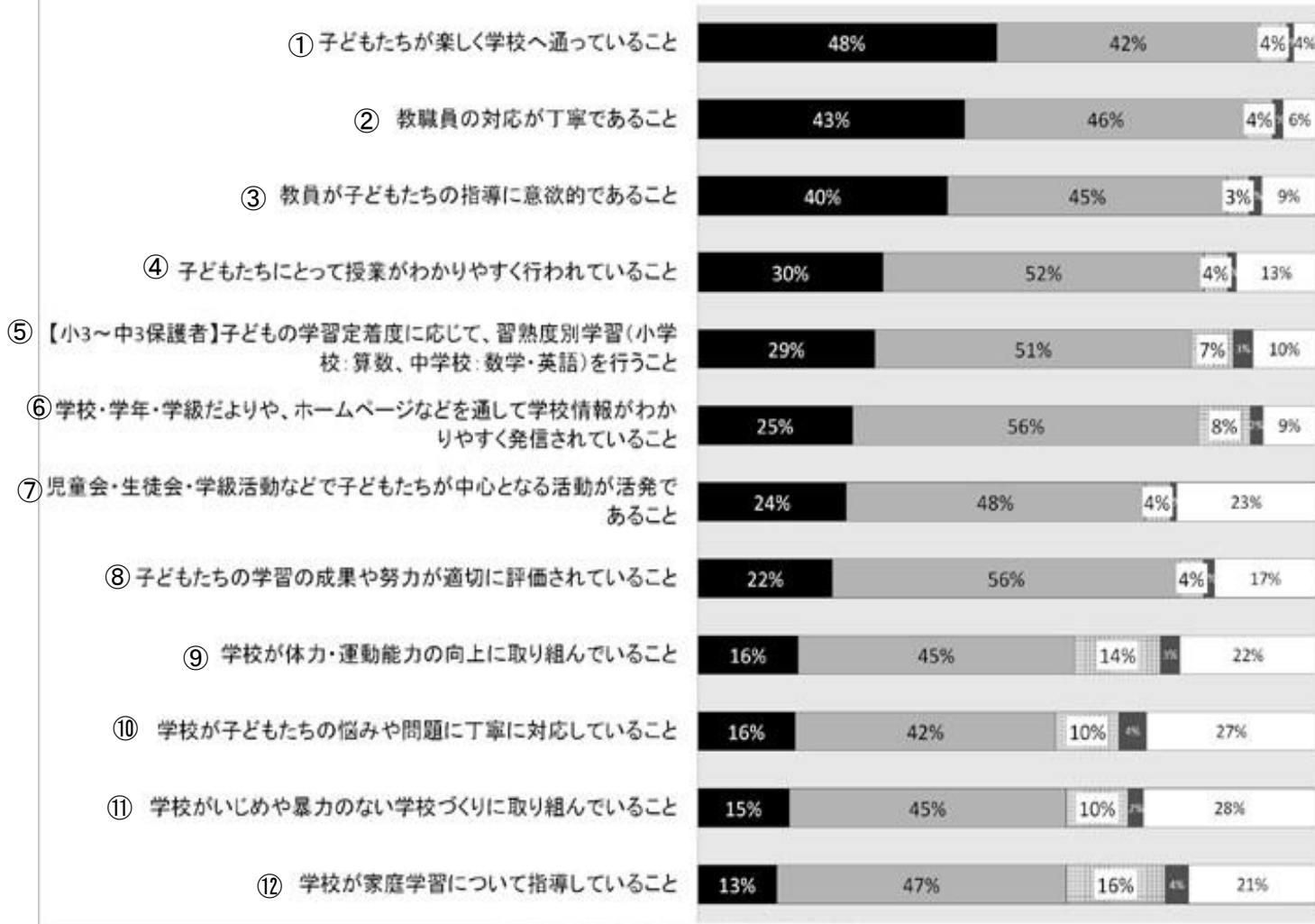
アンケート実施日：平成30年10月24日～31日

アンケート対象者：第七小学校保護者

回収率：296/302世帯（98%）

### 学校に関すること(第七小学校)

■a\_よくできている ■b\_だいたいできている ■c\_あまりできていない ■d\_できていない □e\_わからない



### アンケート結果から得られた課題

※「肯定的回答」…「よくできている」「だいたいできている」の合計  
 ※「否定的回答」…「あまりできていない」「できていない」の合計

- 一昨年度から、パワーアップアクションプランも踏まえながら課題として取り組んできた⑫の「家庭学習の啓発」については、12ある設問中、否定的回答が最も高く、昨年度と比較しても肯定的評価が若干下がっている状況です。また「わからない」の回答比率も上がっており、学校での取組が十分に家庭にまで伝わっていないことがうかがえます。また、全体的な課題であった「わからない」の割合については、昨年度より比率が減った（改善された）項目（⑦など）もあれば、逆に増えている項目（⑩など）もあり、それぞれ何が要因かを検証しながら対策を考えていくことが課題です。
- 昨年度の保護者対象の各設問では、前年度と比較して全項目において肯定的回答率が上昇しましたが、今回は、肯定的評価の割合が比較的高い項目（①～⑧）では上昇、または維持傾向がうかがえたものの、肯定的評価が下位の項目では下降傾向が見られました。これは、依然としてそれらの課題が十分には改善されていないことを示しており、今後の課題と言えます。

# 平成30年度の【第七小学校】の取組 成果と課題

## 成果

### 1. 「めざす学校像」について

- (1) 児童対象のアンケートでは、「学校の授業がよくわかる」と感じている児童が約9割、「苦手だった科目が理解できるようになった」と感じている児童が約8割でした。また、「学校は楽しい」「自分がかんばったことをわかってくれる先生がいる」と感じている児童も9割近くに達しています。また、8割から9割の保護者から「子どもは楽しく学校に通っている」「教員が子どもたちの指導に意欲的である」「教職員の対応が丁寧である」「学校・学年・学級だよりや、ホームページなどを通して学校情報がわかりやすく発信されている」との肯定的評価を得ています。このことから、「安心して子どもを任せることができる学校」「子どもや保護者、教職員、地域が信頼と誇りをもてる学校」という、めざす姿として掲げた学校像の実現については、一定の成果が上がっていると考えます。今後もさらにそのように感じていただけるよう、改善を図ります。
- (2) 「地域に密着しながら、地域と協働する学校」については、各種地域団体や大学などの教育関連団体と、授業や補習をはじめ、学校行事や地域行事、防災教育や校外学習などの多くの活動で協働したり、支援をしていただいたりと、地道な交流を継続、拡大しています。恒例となっている防犯マップづくりは、別に防災の視点からもマップづくりを行い、中学年で二つの視点から地域を実際に調べて発表する活動を行いました。その後、そのマップを基に教員と地域・保護者が大人の目で地域を実際に巡回パトロールする活動も行っています。今後、このような交流をさらに深め、協働レベルの度合いを高めて、地域から愛される学校を目指していきたいと考えます。

### 2. 今年度の重点目標について

- (1) 「確かな学力」「特色ある教育活動」に関して、本校では、昨年度までの2年間の学園研究(三鷹市教育研究協力校指定)の成果を授業改善に活用するとともに、今年度は、三鷹市教育研究奨励校の指定を受けて、新学習指導要領における外国語科(英語)の教科化等を踏まえた先行実施(高学年は週2時間、中学年は週1時間、低学年は2・3学期に週1時間の英語の授業)を行っています。授業形態を工夫し、担任が文部科学省の新教材やデジタル教材なども駆使して単独で行う授業と、ALTが一度に5名来校し、児童5～6名のグループにALT1名が張り付いて指導を行う授業を組み合わせた「ALT集中配置方式」を取り入れました。また、他教科や清掃など日常の活動でも英語を使ったり、英語であいさつをしたりするなど、「英語の日常化」を図っています。教員がビデオ撮影された自分の授業を見て自己評価を行う授業観察など、毎年、様々な工夫をしながら授業改善に取り組む中、授業理解に関する児童・保護者対象の各種アンケートの結果も高い肯定的評価を維持しています。実際に授業をご覧になった保護者やCS委員など地域の方々からも、授業について好評の声をいただいていることから、一定の成果が出ていると考えられます。
- (2) 三鷹市の方針を受けて進めている働き方改革については、夏季休業日の閉庁期間設定(9日間)や夜間・休業日の電話応答メッセージシステムの稼働、教職員の45分の休憩時間の確実な取得など、教職員の過剰な負担の軽減に大きな効果がありました。このことは、教員に心身ともに必要な余裕が生まれ、児童に対する姿勢や時間にも好影響を与えており、成果が出ていると言えます。

## 課題

1. 毎年課題としてあげられる「家庭学習に対する学校の指導」については、保護者の肯定的評価が6割程度あるものの、依然2割程度の否定的評価もあり、残念ながら今年度も保護者の期待に十分そぐわない結果となっています。アンケート結果から、宿題の完了を確認したり、質問に答えたりすることは多くのご家庭で行われていますが、一緒に勉強を見たり、計画したりするご家庭は少ないようです。家庭学習は、学校の学習とあいまって、児童に学力を付けるためには必須のものです。引き続き、家庭学習に関する児童への効果的な指導、家庭への啓発・説明について、課題としていきます。
2. 「子どもたちの悩みや問題に対する対応」については、保護者の肯定的評価がこの2年間で2割以上アップし、今年も上昇傾向にあることから、成果は出ているものの、一方で「わからない」と回答する保護者の増加傾向も見られます。スクールカウンセラーによる5年生の全員面接・事後フォローなど、組織的な取組だけでなく、教職員の日々の対応などについても、働き方改革により生み出される指導の充実・質の向上につなげて、意図的に改善を図っていくことが課題です。
3. 成果の出ている働き方改革については、保護者アンケートの結果では「わからない」が多く、その説明・周知が不十分であることがわかりました。分かりやすく説明をしていくことが今後の課題です。